
麦間挿苗された甘藷の施肥方式について

菊川 誠士・長谷川 浩

(九州農業試験場)

麦間挿苗された甘藷の施肥方式について 1953 年より 3 ヲ年に亘り検討した結果、全量基肥方式が慣行の追肥方式に勝ることが明らかになった。

すなわち、全量基肥方式では、施肥の時期が 5 月上旬のように、早い場合には、小麦の成熟が 1 日程度遅延するが、品質、収量には施肥時期の早晩にかかわらず、悪影響はなかつた。また、本方式では、甘藷の初期生育が常に良好となるが、蔓伸びのよいことが、麦

の刈取、甘藷の培土整畦などの作業に支障とはならない。また、甘藷の収量は、梅雨期に畦崩れの甚しい場合には、本方式が追肥方式に比し明らかに増加し、畦崩れの軽い場合には大差ないことが認められた。結局、全量基肥方式は追肥方式に比し、安全であるといえる。

(九州農試彙報に掲載予定)
